

みんな集まれ！

しまねの社会教育 キックオフ講座

益田
会場

R7.7.4(金)

“集って 楽しむ” から “動き”をつくる

津和野町滝元枕瀬公民館

【講義】社会教育の概要としまねの社会教育

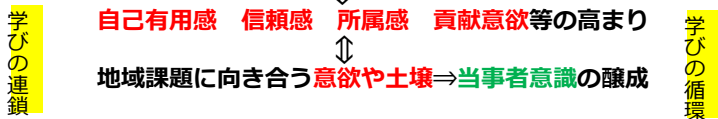
益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹 佐々木 将光

1. 社会教育の基礎知識

- ・社会教育法第2条から（社会教育の定義）
- ・社会教育と生涯学習の関連
- ・学校教育と社会教育

2. しまねの社会教育

- 特色：公民館等施設での人づくり
ふるさと教育の推進（地域学校協働活動の基盤）
社会教育主事が多い（19市町村すべてに派遣）
- しまねの社会教育で大切にしていること
・めざす姿：「未来に対して 主体性をもって生きる人」を育みます。
⇒社会教育の流儀「集って 楽しんで 学んで 動いて 変えていく」



3. 社会教育を進める人・支える人

- 社会教育施設：公民館・図書館・博物館等
- 社会教育主事（社会教育の応援団）、社会教育士
- 社会教育委員

4. 社会教育を進めるみなさんへ

- 学校と地域の協働した取組⇒ふるさと教育、結集！しまねの子育て協働プロジェクト
- 研修会や講座を通した取組
※必要な力を育む
コーディネータカ、コミュニケーションカ、ファシリテータカ、企画立案カ、プレゼンテーションカ
(つなぐ力) (かかわる力) (ひきだす力) (うみだす力) (つたえる力)
- ※「親学プログラム」「地域魅力化プログラム」の活用
- 住民の当事者意識の醸成
“押しつけがましくなく なんとなく乗せられて いつの間にか地域のことを考えるようになる”
- 社会教育の人材派遣、養成、育成
※社会教育主事派遣
※しまねの社会教育人材認証・登録制度
⇒県内の社会教育人材のネットワーク化を進めます



（講義資料より）

【実践発表・実践検討】「にちはらクエスト～謎解きに挑戦～」

津和野町 日原公民館 主事 中田 瑞恵 氏



5館連携で楽しく
日原地区全体の子ども事業がしたい！

主事が1人体制なので負担を増やしてしまうなあ。。。

令和5年

日原地域の主事さんたちに相談

会議の工夫

- ・主事会等で行う
- ・準備などはできる人ができる時に協力する雰囲気をつくった。
- ・安心して言える関係づくりを心がけた

打ち合わせ

- 日原地域の子どもに関わる現状と課題の洗い出し
- 対象者と共催事業の目的を決める
・対象：小学生と保護者
・目的：公民館単位の枠を超えて子どもや保護者のつながりをつくる

他館の子ども事業に参画

※そこで保護者・スタッフアンケートで意識調査を行う

令和6年

情報提供
なぞときゲームで地域活性化
している人がいるよ！

「つわの学びみらい」が仲間入り

- なぞときゲームの認識を共有するためスタッフで体験することを計画

- NEWWORKSTYLEの奈良井さんに来ていただき、実際に体験

- 公民館が創る
なぞときゲームを考える

※話し合いを重ねる中で出た不安をなくすために、目的や詳細をしっかりと話し合う

事業名決定！

- 事業名：にちはらクエスト
- 事業の目的：日原の魅力を再確認できる
：参加者同士の絆を深める
：協力する気持ちよさを味わう
：多様な人と関わりをもつ

公民館×つわの学びみらい×NEWWORKSTYLEが
協働して「なぞときゲーム」
をつくった

楽しい時間を過ごしていたら
いつの間にか学んでた！

なぞときゲームの仕掛け

- ・参加者同士がチームで協力してできるもの・ことを取り入れた。
- ・参加者もスタッフも対話を大切に活動の仕組みづくりをした。
- ・まちをキーワードに問題をつくった。

主体性につながるアプローチ

- ・各地区のブースは担当者に任せる。
- ・「こうしたら良くなる」のアイデアはどんどんやってもらう。

本番は次回のための練習の場、チャレンジするチャンス

成果

- ・ブースに入った高校生が主体的に動く姿が見られた。
- ・スタッフも参加者も主体的に楽しめた。
- ・楽しい会話（それぞれの想い）から動きに変わっていく過程で仲間意識が育まれ、主事同士フォローし合う関係性ができた。
- ・主事のスキルアップにもつながった。

佐々木企画幹からのコメント

- ・仕掛ける側が楽しそうにやっている。
- ・ニーズに応じて課題を把握し押しつけにならないようにしていた。
- ・中高生の活躍の場になっている。→小学生のモデルになる。
- ・同質で集まるのは楽しいが、異質なものが入ることにより多くの学びや気づきが生まれる。学びが深まるには混ざる。

【演習】「自分にできることを考えよう！」（□の中は出た意見）

- 住んでいる（勤務している）地域の現状（良さ・課題）を付箋に書き出しグループで紹介し合いパネルに貼る。

地域の現状
（現在）

- ・高齢者が元気
- ・想いのある人が多い
- ・地域行事が活発
- ・清掃活動の参加者が多い
- ・働き者が多い
- ・住みやすい町
- ・住民同士の横のつながりがある
- ・元気なリーダー的な方がおられる
- ・人とのつながりが希薄
- ・高齢化が進んでいる
- ・草刈りの人材不足
- ・働く場所が少ない
- ・地域に関わる人が固定
- ・若い人との接点がない
- ・昔からある行事がなくなりつつある



- 理想の地域像を実現するために何が必要かを考える。実際に取り組みそうなものを丸で囲む。

人をつなぐ

地域の人が学校へ行く→開放型学校図書館
交流つながりのためのイベント
居場所作り（カフェ、読書）顔見知りになる

地域活性化

交流人口が増える 空き家を利用し集う場所
UIターン×地域の人

お互い様で助け合える
関係性

困りごとの手伝い→相談できる関係性
支え合いマップ（どこに どんな人？）
立ち寄る居場所



- 地域が10年後どうなっているとよいかを付箋に書き理想の地域像を紹介し合う。

理想の地域像
（10年後）

- ・つながりのある町
- ・安心して暮らせる
- ・顔見知りが多い
- ・高齢者が生き活きと暮らす
- ・変わらない自然の豊かさ
- ・地域の担い手がいる
- ・魅力的な働き場所ができていく
- ・コンパクトで住みよい町になっている
- ・伝統文化が子どもに伝えられている
- ・若者との交流が活発にできる
- ・近所づきあいが盛んになる
- ・人とのつながりが強くなる
- ・多世代交流ができる
- ・起業する若者がいる



- 他のグループの考えを共有する。



- 理想の地域像に向け、自分にできそうなことなどを書き紹介する。

- ・人間関係を築く
- ・今やっていることを続ける
- ・助け合いへの協力
- ・子どもにふるさとの良さを伝える
- ・魅力発信
- ・考え（企画して）行動！トライ&エラー
- ・積極的に変化を促す
- ・まずは人を知り、自分を知ってもらう
- ・学校と地域へ情報提供や相談
- ・伝統文化を伝える
- ・助け合いへの協力
- ・自分も旗をふってみる

【ふりかえりより】研修をふりかえって、心に浮かんだキーワードを書く

- ・集って楽しむ
- ・当事者意識の醸成
- ・対話の中にヒントがある
- ・楽しい社会教育・楽しい生涯学習
- ・本番は次へのチャレンジ
- ・安心感からうまれる主体性
- ・楽しんで押しつけがましくなく面白がってすること!!
- ・いい人がいい町をつくり、いい町がいい人をつくる⇒循環型社会



【アンケートより】

- ・社会教育とは何だ？私の役割は何だ？と思っていましたが、家から一歩出たら社会教育が始まって人と挨拶をすることから関りが生まれるのかと感じました。
- ・いい人がいい町をつくり、いい町がいい人をつくる！とても響きました。
- ・しまねの社会教育について再確認ができました。答えのない社会の課題解決を進めるうえで社会教育が礎になっていけばいいと思いました。
- ・社会教育の概要について理解できた。学校教育との連携が大切であると思った。（さまざまな世代の交流）
- ・参加者の方々からエネルギーをたくさん頂きました。これからの活動がんばります。
- ・楽しんで活動することが大切だと再認識しました。今日、研修会に参加して元気ができました。